

科目名		建築法規Ⅰ			
担当教員		佐藤 静		実務授業の有無	
対象学科		建築大工科		対象学年	
必修・選択		必修		1年	
		単位数		開講時期	
				後期	
				時間数	
				32	
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心に、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。			
学習目標 (到達目標)		人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		・図説やさしい建築法規 著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社 ・建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	都市計画、道路に関する規定 (都市計画区域内の概要・道路の定義) ①都市計画制度の概要、 ②道路の種類、基準等、③練習問題			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～③の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
2	用途地域に関する規定 (用途地域の種類・建築物の制限等の規定) ①用途地域の目的、建築物の制限が理解でき説明できる。 ②練習問題			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
3	面積の制限 (敷地に対する面積の制限・緩和の規定) ①容積率の規制・緩和、建ぺい率の限度と計算 ②練習問題			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
4	高さの制限 (道路、隣地境界に対する高さの制限・規定) ①道路、隣地境界に対する高さ・計算 ②用途地域による高さ制限・計算 ③練習問題			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～③の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
5	建築設備 ①建築設備の概要 ②練習問題			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
6	防火に関する基準(防火、火災に関する構造基準) ①防火、火災に関する構造・設備の概要 ②延焼のおそれのある部分の計算 ③練習問題			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	小テスト			建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ることで、他の科目と関連性をもって学ぶ必要がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的な小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		一級建築士・福祉住環境コーディネーター1級として、住宅設計に10年携わる。			